

ゲノム研究の未来は?～あなたならどう答えますか～



展示責任者

山縣 然太郎

山梨大学大学院
医学工学総合研究所
社会医学講座

「ゲノム研究」というと、研究室で、何か(人間以外の)生き物や、そうじゃなければ目に見えない大きさの細胞を相手に、「実験」をしているというイメージがありませんか?

実は、それだけではないのです。「社会との接点」についての研究班では、現在の日本社会が、ゲノム研究や遺伝子について、どんなふうに理解し、考えているかについての研究を行いました。そういった結果を、ゲノム研究の専門家が理解し、今後の研究やその他の取り組みに生かすことも大切だからです

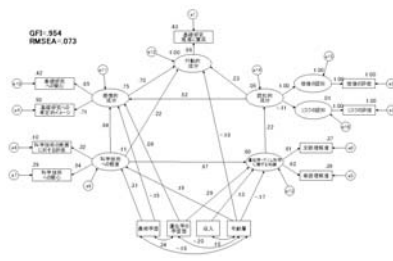
今回は、「ゲノム研究の未来」に関する調査を紹介します。国内在住の皆さん2,000人以上に回答していただいた調査と研究者を対象とした調査をもとに、ゲノム研究に対する賛否や理解などを分析したものです。「ゲノム」という言葉を知らない人が多い一方で、ゲノム研究に期待を寄せる人が多いことがわかりました。

また、これらの解析に利用した統計手法をわかりやすく理解していただくために、簡単な質問に答えていただくだけで、あなたがゲノム研究に関してどのように考えているか診断するコーナーも用意して、楽しんでいただけるよう工夫しました。

あなたは、どの派?
ゲノム研究に対する意識の構造類型化(潜在クラス分析)

- Cluster 1: 積極推進派(関心が高く、推進にも賛成)
- Cluster 2: 消極推進派(関心は高くないが、推進には賛成)
- Cluster 3: わからん派:どの質問にも「どちらともいえない」
- Cluster 4: 関心慎重派:関心高いが、推進には態度保留
- Cluster 5: 無関心・冷淡派:関心が低く、推進にも冷淡

ゲノム基礎研究に対する態度に関する共分散構造解析



まあ日刊ゲノム新聞 — 科学と社会特集 —



展示責任者

加藤 和人

京都大学人文科学研究所・
大学院生命科学研究所

ゲノムやゲノム研究と聞いて、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。言葉は知っていても自分との関わりはよくわからない?あるいは日頃からいろいろ考えていて、研究者に意見を言いたい、という人もいるかもしれません。私たちの研究室では、ゲノムとは何か、ゲノム研究と社会がどのように関わるかについて、社会に伝え、ともに議論していくための研究と活動を行っています。今回はその中から2つの例を紹介します。

○ゲノム研究と報道 新聞の中で、「科学」ってどんな風に表現されているのでしょうか。多くの人々は科学情報をマスメディアから得ているということがわかっています。新聞記事中における「ゲノム」という単語の用いられ方を解析することで、メディアの中で描かれている「ゲノム」のイメージを検討します。

○ゲノム研究と教育 ヒトゲノムに焦点を当てたゲノム科学への導入のための教育プログラムを開発しました。このプログラムは一家に1枚ヒトゲノムマップとゲノム科学の基礎に関するアニメーションを用いていることが特徴です。生徒達がこのプログラムからヒトゲノムについて学習したと感じ、理解がいくらか上昇することを見いだしました。

<http://stw.mext.go.jp/>

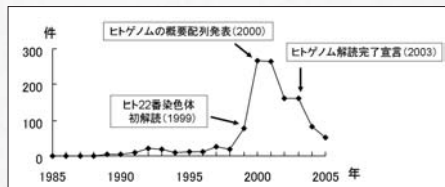


図1.「ゲノム」記事数の変化と関連ニュース

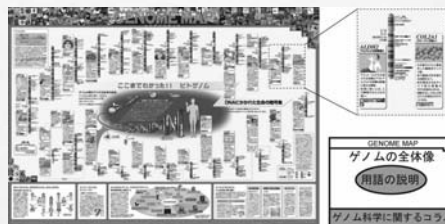


図2.一家に1枚ヒトゲノムマップ